

洞爺湖温泉利用協同組合 温泉熱発電事業の推進 に向けて調査研究



熱心に地熱エネルギーの話を聞く参加者

地熱開発への理解を促進させる勉強会開催

金比羅火口付近の湯湯試験で、約100度の地熱水のくみ上げに成功した洞爺湖温泉利用共同組合は、2月24日、洞爺湖観光

情報センターで、地熱開発への理解を深める学習会を開きました。

同会では、田中康弘北海道産業局エネルギー対策課係長、澤好博北海道電力火力部地熱グループリーダー、八幡正弘マイジオ代表の3人から話を聞きました。

最初に田中氏は「日本のエネルギー需給状況と地熱開発・利用政策及び平成26年度エネルギー関連補助事業の概要」と題して講演。日本のエネルギーの現状から、これからの地熱開発について言及し「発電時の二酸化炭素排出量はほぼゼロであり、環境適合性に優れている」「他の再生エネルギーと比べて、設備利用率が格段に高い」などのメリットを説明しました。

最後に元道地質研究所資源環境部長で、長年洞爺湖温泉の地質について研究してきた八幡氏から「洞爺湖地域の地熱資源の状況について」講演がありました。

今回の掘削調査にむけて、候補地選定の経過の説明があり、1989年以降のボーリングデータや洞爺湖から長流川流域にかけての地下温度分布、カルデ



スヴァルツェンギ地熱発電所

ラ断層の推定など、様々なデータから綿密に計算していったことが明らかにされました。

得られた熱水からは、特に二酸化炭素、硫化水素が少ないことが分かり、地熱エネルギーにしやすいことが判明しました。

最後に「温泉熱発電が可能となった」とし、「新たな泉源がまだあるのではないか」と今後の地熱資源の広がりに期待感を寄せました。

地熱発電先進地を視察

洞爺湖温泉利用共同組合は、地熱発電の事業の実施に向けて、昨年11月25日から、地熱エネルギーの先進地アイスランドを視察し、經由地であるデンマークでは、風力発電について話を聞いてきました。



九州電力大霧地熱発電所

アイスランドでは、エネルギー庁を訪問し、同国のエネルギー事情について「オイルショックを契機に、海外の石油依存から国内資源の地熱、水力利用に転換。エネルギーの7割を地熱が占めている」との報告を受けました。

地熱関係施設として、スヴァルツェンギ地熱発電所や地熱発電の排熱水を利用する世界最大級の露天風呂「ブルーラグーン」などを視察しました。

一方国内視察では、九州、鹿児島県霧島周辺への視察研修を実施しました。1月23日から霧島市役所や九州電力大霧地熱発電所を訪問し、地熱利用の活用や温泉資源の保護を目的にした環境保全や観光振興への取組みについて理解を深めました。

■不在者投票

病院や老人ホームなどに入所している方や旅行などで町外に滞在している方は、不在者投票ができますので、町選挙管理委員会に問合せください。

選挙公報の発行

候補者の政見や経歴、写真など広く有権者に知らしめ、選挙に対する関心を高めることを目的として選挙公報を発行します。

選挙公報の配布は、4月9日（水）の午後より、町内自治会を通じて4月12日（土）までに全世帯に配布することになっていますが、もし、お手元に届かない場合やお急ぎの場合は、選挙管理委員会事務局まで連絡してください。

また、町のホームページや各公共施設においても、選挙公報を掲載又は設置していますので、ご確認ください。

